勝利の解決

騒擾二十日間に亘つた 大電罷工問題

大阪 十六日夜 事件は、既に廿日間の長期に亘りて形勢益す悪化し、遂に全関西の労働團隊に拡がる大争議となつて、警官隊と衝突し、流血の惨事を醸すに至つたので大阪府警察部では上京中の田中警察部長に

急を 報じ、(同氏は警察部長会議より急遽十五日下阪するや、先づ会社側より宮崎社長、島重役を、労働者側よりは友愛会の賀川豊彦氏等を官邸に召致して種々調停を試みたが、両者の

主張 に甚だしく距離があつて容易にまとまる模様もなかつた、大阪市騒擾のお祭騒ぎを目の前に控へて調停頗る困難を極めたが十六日朝、名古屋に出張中の[illegible]

宮崎 大電社長及重役代表と[illegible]して島徳蔵氏を官邸に招き、裁停案を示して諒解を求めた處、宮崎氏は第一項は兎も角他は絶対に出来ぬと頑張り部長は「警戒の警官も悉く疲労し、且つ三日間に渉るお祭騒ぎもある、左様に

頑張 るなら最早会社の保護に任ずることは出来ないから勝手にせよ」と突放し、尚重ねて騒擾を醸した場合には会社の責に任ずる」と高圧的に激語したので流石に頑強な宮崎社長も遂に我を折り、重役会の協議に附した上、十七日午前一時

漸く 承諾と決し、更に引続いて同日午前九時から大電本社階上[illegible]

新紀元

筆を執りて (上)

▲松村氏から左の投書に接した、時節柄是を紹介して置かう(記)

▲「新紀元」記者様、相變らず御健勝の趣を毎夕の新聞紙でかげながら力強く思つて居ります。これで三度目でございますが、とにかく私の生命が籠めて書いたものでまた私の思索が或スタートに立つた時の作は、どうしても、先生に見ていたゞき度くて、失禮をもかへり見ず御膝下へお送り致しますのです。どうか、あやふやなところは、お叱正下さいます樣お願ひ申します。勞働者として、瞑想を、ほしくてならない私は、間違つてゐるのでせうか。勞働生活に瞑想がないから、血を流す樣に思へて來ます。亂筆などうぞお許し下さいませ。清書するにも、疲勞が先に立ちまして

松村宮藥

▲私は今日で二日仕事を休んでゐます。明日は月曜ですから無論工場へ出て行きます私は今、私の氣分を皆吐き出してしまひたくてならないのです。今は日曜日の夕の電燈が點つたばかりの時刻です。昨日も今日もかうしてじつと家の中に居ました。誰もさう命じたのではありません。

▲だつて私は頭が痛くて咽喉が痛くて、寒氣がして、いらく\してそれはもう灰色な時間を送つてゐるのですから――

▲どうも困つたものです、私の此の今の氣分はとても言はれさうにありません。私の今まで生て來た自傳を書いたら、いやそれでも人樣には判じられますまい。

▲かなしいやうなうれしいやうな、さむいやうな、さみしいやうな、くらいやうな、飴色のやうな、眠つてばかり居たいやうな、何にも彼も打碎きたいやうな、泣き出したいやうな、笑ひ出したいやうな、何ごとも彼ごとも言ひやうのない、あゝやつぱり灰色の世界の中に、たつた一人で吐息してゐるやうな心持です。

▲が、こんな事では、私の胸はまだ言ひ足りなくて辛い私の貧しい文字と頭が――こ言つて見てもなあんにもなりません。

▲勞働問題が何の彼のとて一氣に書いて除けるこのは遂つてゐるし、一時を氣まぐれに甘い物語を書くのこもちがひます、あゝいつそやめて默つて居ようか、いやそれではさみしい。とてもじつとして居られない。

▲私の身體の持つてゐる「力」といふもの丶總てを吐き出してしまふまで、何でも好い家を躍り出すかしなくてはとてもじつとして居らない。一口に言へば、底拔け騷ぎをやつて見たい。死んでしまはうが、何がどうならうが、かまふことはない。

▲が、それは、私を實際に動かせる丈けの衝動を私には與へません。然うしたいやうな氣分を、胸に持ちながら、私はやつぱり、じつと机の上の紙へペンを走らせてゐる性質の人間だつたのです。

▲こうして苦しみながら書いて、それで私がどうなるのでもない。やつぱり私そのものには進歩もない、多分退歩もないであらう。

▲かんな物書くよりも、早く眠つた方が、明日の勞働の爲に好いかも知れない、好いに定つてゐるだらう。

▲然し何とかしてこの氣分を書いてしまひたいものだ。この氣分に形を與へたいものだ、あゝさうだ、私はこの氣分を結晶させる爲に、今夜は心を集中するのです。

▲こゝまで書いてゐると、新聞の號外が來ました。勞働聯合運動會後、安治川發電所を襲撃す、負傷者三十數名に上る、警官隊と大亂鬪」といふ見出しで、勞働者が二千名も發電所の正門を突破し、折から構へてゐる警官隊と入り亂れて鬪つてゐる樣子がかいてある

▲「こんな事になると思つた!」と、私は呟いた。あゝして騷いでゐる人々は世の中が全體に騷いでゐる樣な―いや無我夢中になつてゐやうけれど、この人間の世界のほんの一部分しか騷いでゐないのだ

▲どんな理由にせよ、この騷ぎを始める衝動を凝やと客觀するのでなくては、眞にその人は自分を知つてゐるとは言はれない。何か自分以外な群衆心理とでも言ふのに支配されてゐるのだ。

▲あはれな今夜の勞働者よ!可愛相な負傷者!私には、お前達のさうやつて騷いでゐる心理がよく判る、無理はないと思ふ。

眠つてゐる 勞資協調會

暴動化する昨今の勞働爭議に 幹部は何を仕て居るか

勞働 爭議は、近頃いよく惡傾向を帶び、殊に大阪電燈の勞働騷ぎの如く、遂に暴動化するに至つて居る、此の勞働騷ぎに對し、大資本を擁して居る勞資協調會は、果して如何なる活動を開始して居るか、嘗て突發した足尾銅山事件に於て見ても、その

無能 振りを遺憾なく暴露して居る、今日まで協調會が資本家對策若しくはその啓發運動を開始した事を聽かず、殆んどその名の知れて居るのはお馳走政策のみで、勞資が眞に協調されて國家の進運に貢獻するといふ事を忘れてゐるのではないかと思はして居る一般

役人 上りの數の多い同幹部は常に一片の形式に流れんとして居る傾向があるだけ、從來の御馳走政略、會議等は幾多之を繰返すも役に立つものではない、今日の大電事件の如き、幹部總出で之が解決の任に當る事は、協調會の本來の任務ではあるまいか、眠れる協調會は

此際 莫大の補助金を貰つて居る手前、緊褌一番すべき秋である――と某博士は憤慨して語つて居た